

大阪府 岸和田市

岸和田市は、大阪市と和歌山市のほぼ中間に位置し、東西約10.4km、南北約17.0kmの細長い地形で、おおむね臨海部・平地部・丘陵部・山地部に区分され、丘陵部から山地部にかけては豊かな自然が残っています。また、農産物の産出額は大阪府内トップクラス、漁獲量も大阪府内の約80%を占めるなど、農業・漁業ともに盛んで食の魅力にも溢れたまちです。

江戸時代に岡部氏5万3千石の城下町として栄えた我がまちは、令和の今もなお岸和田城周辺にはその風情を残しつつ、市内各所に多くの文化財があり、一方で臨海部や丘陵部での企業誘致が進展するなど、歴史と文化、そして産業が融合するまちともいえるでしょう。

また、今や全国的にもその勇壮さが有名な「岸和田だんじり祭」ですが、その歴史と伝統はおよそ300年ともいわれ、1703（元禄16）年、時の岸和田藩主・岡部長泰公が京都伏見稻荷を城内三の丸に勧請し、五穀豊穡を祈願し行った稻荷祭がその始まりと傳承されています。そして地域の人々により連綿と受け継がれ、今日まで育まれてきました。岸和田だんじり祭の当日には、勢いよく走りながら直角に向きを変える「やりまわし」などのダイナミックな曳行、夜は美しい提灯が飾られた情緒あるだんじりの姿を見ることができます。



岸和田城とだんじり

そんな食や歴史、祭礼など多彩な魅力に富んだ岸和田市は、1912（明治45）年に「岸和田町」として誕生し、その後、紡績業の発展をきっかけとして製鋼、煉瓦製造などの産業の発展とともに市街地化が進み、1922（大正11）年11月1日に、全国で87番目・大阪府内で3番目に市制を施行、来たる2022（令和4）年11月1日には市制施行100周年を迎えます。

和歌山大学との連携

和歌山大学と本市は、2003（平成15）年に「和歌山大学・岸和田市地域連携推進協定」を締結し、2006（平成18）年には大学と地域をつなぎ「知（地）のプラットフォーム」となる「和歌山大学岸和田サテライト」が開設されました。

2017（平成29）年2月には、「地域×異世代×大学ではじめよう、じぶんと暮らしのデザイン。」というテーマで岸和田サテライトの10周年を記念するフォーラムが開催され、それまでの岸和田サテライトのあゆみや事業内容について多くの方々に知っていただく機会となりました。

今年で開設15年目を迎える岸和田サテライトは、地域に開かれたキャンパスとして、多種多様な知識や教養の習得支援、専門性の高い知識の習得による社会人実務家の育成や地域のキーパーソンとなるような人材育成を目的としており、また地域の発展・振興と活性化、そして創造に貢献すべく、和歌山大学と本市とは対等互惠の精神でさまざまな連携を進めています。

世代を超え、地域に根差した学び

岸和田サテライトでは、学部開放授業や大学院科目の開講をはじめ、誰でも気軽に聴講できる公開講座「わだい浪切サロン」の開催など、高等教育機関である和歌山大学の持つ「知」を地域住民へ提供いただいております。受講者や参加者の世代は若者からシニア世代と幅広く、岸和田サテライトは、世代間交流や社会人の学び直しの場となっています。また、授業等では本市の地域課題や地域ニーズを採り上げるなど、地域に根差した学びを展開しています。



事業の様子

岸和田サテライトで学んでいる方々は、地域や仕事で役立てたいという方から、教養を身に付けたいという方まで、その関心は幅広いものです。そしてこれからは、岸和田サテライトを通じてさまざまな「学び」をしてきた人たちが、その学んだ知識や経験を活かし、活躍していける場づくりを進めていきたいと考えています。

研究フィールドとしての岸和田

生涯学習、教育、観光振興、産業振興、防災、市街地活性化などの地域課題等について、これまで、本市が舞台となったテレビドラマに係る経済波及効果に関する「連続テレビ小説『カーネーション』による経済効果の計測—観光消費額を中心として—」、本市丘陵部に所在するJAいずみの農産物直売所「愛彩ランド」を手掛かりとした都市農村交流に関する「JA農産物直売所設置にともなう生産者の意識変化—大阪府岸和田市JAいずみの『愛彩ランド』出荷部会へのアンケート調査結果—」、かつて本市をはじめとする泉州地域の一大産業であった繊維産業の課題に迫る『『地域調査研究』記録とレポート2013—泉州地域の繊維産業とその課題—』などの調査研究が行われてきました。

今後も、行政や地域のニーズと大学のシーズをマッチングさせ、地域が抱える課題の解決や地域の発展・活性化に寄与する研究、活動が行われること、また、大学教員だけでなく、学生にとっての研究フィールドとしても本市が選ばれ活用されることを期待しています。

高校生に向けた主権者教育

2016（平成28）年、岸和田サテライトの地域課題研究事業の一環として「主権者教育プログラム」が始まりました。当時、「18歳選挙権」が話題となっており、地域の高校生に向けての取組でした。そこから毎年テーマをマイナーチェンジし、創意工夫しながら、岸和田市内の高校に通う高校生をターゲットとして、主権者教育プログラムを続けてきました。

主権者教育とは何かを改めて考えたときに、単に政治の仕組みや選挙に関する教育だけが主権者教育ではなく、社会で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一員として主体的に担う力を育む^[1] ことこそが主権者教育であると気づかされ、2019（令和元）年度の主権者教育プログラムは、実践的な課題解決型の探究学習を行っている高校と連携し、高校生の課題研究を支援するような形で行いました。

引き続き高校と連携しながら、本来あるべき主権者教育について考え、推進していきたいと考えています。

これからの連携・展開

これまで、地域連携推進協定のもと、いろんな形で連携事業を進めてきましたが、本市のニーズと大学のシーズをマッチングさせられていない行政分野や地域課題等も多くあり、言い換えれば、まだまだ連携の可能性が秘められている状況です。

これからも、和歌山大学と岸和田市の両者に通ずる「和」の文字の意の如く、対等互恵の精神を大切にしながら、お互いが発展的に成長できる関係性を保ち、地域に貢献できる「連携」を行っていかれることを期待しています。

[1] 文部科学省「主権者教育の推進に関する検討チーム最終まとめ」より抜粋。